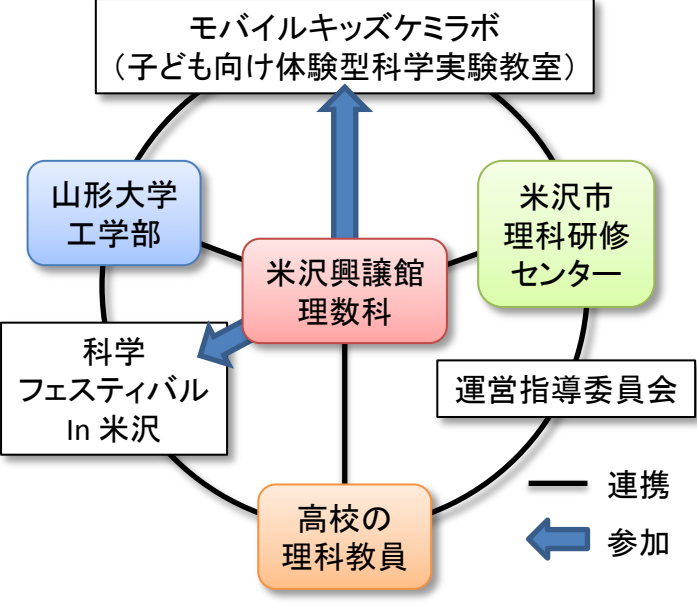


本校理数科を取り巻く科学教育環境と相互の連携状況及び科学イベントへの参加



米沢の理科教育に大きく係わる機関として、高等教育機関である山形大学工学部、初等・中等教育における理科教育を支援する米沢市理科研修センター、そして、高校の理科教員による、より良い理科教育を研究する高等学校教育研究会理科部会の3つがあげられる。これらの機関は、相互に連携・協力し、米沢の理科教育の向上に努めている。

本校の理科科2年生はこれらの教育・研究機関の協力を仰ぎながら、従前の『科学する心』はもちろん、それに加え『科学コミュニケーション』力を育む取り組みを行っている(左図参照)。本校理数科の生徒が小学生や中学生など子ども向けの体験型科学実験教室の講師となり、子ども達に科学の楽しさや不思議さを伝えられるようになるのが目標であり、また、この事業により、本校理数科が広く地域に科学の楽しさを伝える役割を果たすことが願いである。

今回はこのような取り組みの中より、平成27年10月10、11日に開催された生涯学習フェスティバルでのモバイルキッズケミラボブース及び平成27年10月25日に開催された地域の文化祭である南原文化祭でのK.O.J.Oケミラボで生徒が活躍している様子を紹介する。小さな子ども達の笑顔が印象深い。

将来、私達の後輩になる子ども達へのメッセージ

「子供たちの笑顔」ーケミラボに参加してー

1年女子生徒(米沢一中出身)

今回、1年理科志望者としてケミラボに参加し、プラ板作りのブース担当をさせていただきました。米沢生涯学習フェスティバルの一環として開催されたケミラボのブースには多くのお客さんがひっきりなしに訪れて、開始直後からてんやわんやの忙しさが続きました。プラ板作りのコーナーは、四人までしか座れなかったため、一人ひとりに作り方を教えるのは楽でしたが、続々と子供たちが訪れるので、休み暇もありませんでした。けれども、私がお手本として絵を描くと、それを見た子供たちは目を輝かせて喜んでくれました。また、オープントーナメントの中で縮んでいくプラ板をびっくりしながら見つめる子供たちの笑顔に囲まれて、科学の不思議が子供たちの心を動かしているのを目の当たりにしました。



「南原文化祭」を通して

1年男子生徒(米沢七中出身)

南原文化祭では、水と片栗粉を混ぜてダイランシーを作る実験や、スライムづくりの実験を行いました。ダイランシーという言葉は、これまで耳にしたことはありませんでしたが、実際に触れてみるのは初めてでした。力を加えると固体のような手触りになり、優しく触れるとただの液体のような手触りになります。その不思議な感覚に私自身衝撃を受けたのですが、それは子どもたちにも大変評判が良いものでした。

子どもたちにも説明する際は、難解な言い回しをすると飽きてしまったり、目を見ないで話すと聞いてくれなかったりして、意外と難しかったです。私は話すことには自信がりましたが、それでも見直さなければならぬところが多くありました。

この文化祭を通して得たものを今後にかかしていきたいと思います。

